

公開概要書

受付日	令和 6 年 7 月 4 日	回答日	令和 6 年 7 月 29 日	担当課	観光交流課
意見等の内容	新たなサイクルタウンの実現 ①道路インフラ整備による自転車レーンの設置 ②サイクルステーションの構築(拠点づくり) ③サイクルトレインの実現のため、鉄道乗車環境の整備 ④サイクリング都市として企業誘致への推進 ① メリットについて 自動車走行レーンとの分離化を図ることで、相互の安全走行を確保でき、交通事故防止による効果も期待できる。 また、多くの市民が自転車を活用することにより、交通渋滞の緩和や市民の健康づくり、更には、排ガスの抑制による環境保全にも寄与することとなる。 ②メリットについて 各サイクリングコースにある重複ルートにステーションを設置することで、サイクリスト相互の交流拠点が生まれ、サークル活動などがより活性化される。また、イベント等の企画などにより、県外部からの参画を促進し、新たなサイクリストの聖地として全国的な発信も可能となる。 ③メリットについて 鉄道への自転車(輪行袋を使用しない)ごとの乗車が可能となれば利便性も高まり、鉄道の利用増に期待でき、鉄道網の便数の縮小等を抑制し、地域の交通手段として改めて見直されることにもつながる。 また、自転車における行動範囲が広がることで、他地域間との交流、観光地でのサイクルツーリングから観光の深堀にも期待できる。更に、観光先では、自狭小の駐輪場やバイクスタンド(スポーツバイク用)があれば十分賄える。 ④他地域にないサイクルタウンとしての町づくり政策を推進し、スポーツ自転車メーカーの工場誘致及び新たな雇用への創出、自転車の町として新たな地域社会を構築していくと、益田市の将来の発展に期待が持てる。				
回答の内容	益田市では、「益田市自転車活用推進計画」の策定や、地域が一体となり、「自転車によるまちづくり」を推進しているところです。 ①道路インフラ整備による自転車レーンの設置については、自転車は、子どもから高齢者まで幅広い世代にとって、手軽で便利な交通手段として最も身近な乗り物であり、CO₂を排出しない環境にやさしい乗り物であることなどを踏まえ、「益田市自転車ネットワーク計画」を策定し、誰もが安全・快適に利用できる道路空間を確保するため、計画的に車道左側に走行空間を設ける整備を進めているところで				

	す。 ②サイクルステーションの構築（拠点づくり）については、令和４年８月に国土交通省に登録された「益田市高津川かわまちづくり計画」において、高津川を周遊できる新たなサイクリングコースの整備や、賑わいの拠点として、やぶさめ公園付近（高津）、豊田公民館付近（横田）にレクリエーション等に活用できる水辺拠点を整備することとしており、令和９年度の完成を目指しております。 ③サイクルトレインの実現のための鉄道乗車環境の整備については、全国６０路線以上で自転車の乗車が可能な列車の運行が行われており、島根県内では、一畑電車が車両内に自転車を持ち込むことができます。 公共交通と自転車の連携は、輸送力拡大や利用圏域拡大など、サイクリストの生活行動にもメリットがあると考えております。沿線地方自治体で構成する「ＪＲ山陰本線利用促進協議会」においても、他路線の状況を踏まえ、導入に向け検討を進めていくこととなっております。 ④サイクリング都市としての企業誘致への推進については、これまでも自転車関連企業に特化した企業誘致及び雇用創出には取り組んでおりませんが、山陰道の整備が進むことで物流面の課題も改善され、新たな企業誘致も期待されます。 今後も引き続き、新たな雇用の場の創出に向けては、自転車関連企業に限らず幅広い業種を対象に取り組んで参ります。 引き続き、民間企業・団体・地域住民など、地域が一体となり「自転車によるまちづくり」の推進に取り組んでいく所存です。
--	---